



【韓国】 総合指数は週間で1.2%高と続伸、今週は神経質な展開か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.2%高と続伸。米国株市場や米長期金利の動きに追随し、進一退の値動きが続いた。下落する局面もあったが、2400ポイント付近では下げ渋った。連休明け19日は続伸スタート。休場期間の世界的な地合い改善が支えとなった。20日は世界のスマホ販売の減速懸念が主力ハイテク株の重しとなり反落。21日は自動車株に押し目買い入り反発したが、22日はハイテク株に売りが出た。23日は米株高や米長期金利の低下を受けて、リスクを取る投資家が増え反発。前日比の上昇率(1.5%)は17年10月10日以来の大きさだった。今週は神経質な展開か。消費者信頼感、貿易統計、鉱工業生産、日経韓国製造業PMIなどの主要経済指標が相次いで発表され、結果次第では相場のボラティリティが高まる可能性がある。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS指数は週間で3.0%高と続伸、今週は米口関係に懸念も堅調持続か

先週の動き／今週の展望

RTS指数は週間で3.0%高と続伸。23日が休場で4営業日の取引となった先週も買い優勢の展開が続き、1月26日以来となる1300ドル台を回復した。原油高や週後半の米国株高を背景に指数構成45銘柄のうち35銘柄が週間で上昇した。1月実質小売売上高が2.8%増(市場予想:2.4%増)、1月失業率が5.2%(市場予想:5.3%)と、ともに予想より良好な結果となったことも支援材料。週明け19日にわずかにマイナスで寄り付き、週前半はもみ合ったが、21、22日は2日連続で高値引け。S&Pグローバル・レーティングによるロシアの格付け引き上げ観測(23日に格上げを実施)が相場を支え、22日には前日比0.8%高の1301.01ドルで取引を終了した。今週は米口関係の悪化に対する懸念はあるが、引き続き堅調な展開か。

▼指数チャート



【ベトナム】 VN指数は週間で4.1%高と大幅続伸、今週もセンチメントは良好か

先週の動き／今週の展望

VN指数は週間で4.1%高と続伸。前週に2営業日の取引ながら大幅に反発した流れを引き継ぎ、テト(旧正月)明けの21-23日も堅調な展開が続いた。休場中の米国株市場が底堅く推移したのを受け、休場明けのホーチミン市場では投資家心理が悪化しなかった。原油高が続いたことも支援材料。再開初日の21日は買い優勢で、前週末比1.3%高で寄り付いた後は銀行株が相場をけん引し、終値は2.6%高だった。22日は4営業日ぶりに反落したが、23日に買い戻され、2月2日以来となる1100ポイントを回復。1102.85ポイントの高値引けとなり、週間ベースで続伸した。個別では銀行株以外にビンググループが6.4%高、ビナミルクが4.4%高と主力銘柄が指数をけん引した。センチメントは良好で、今週も堅調な推移か。

▼指数チャート





【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.4%高、19日に過去最高値を更新

ジャカルタ総合指数は週間で 0.4%高と続伸。週初に大幅反発したものの、その後の下落が上昇幅を縮めた。19日は寄り付きで 6600 ポイントを回復すると、大引けにかけて上値を広げ、終値で前営業日比 1.5%高と 3 週ぶりに過去最高値を更新。ただ、勢いは続かず、20日に金融株の一角が売られて反落すると、売り優勢の値動きが続き、22日には終値で 6600 ポイントを割り込んだが、23日はアストラ・インターナショナルが上昇をけん引し、この水準を回復して取引を終えた。今週は 1日に 2月の日経 PMI と CPI が発表される予定。日経 PMI が 3 カ月ぶりに 50 ポイントを回復すれば株式相場の追い風になりそうだ。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 2.6%高、今週は 2日に 2月の製造業 PMI 発表

ストレーツタイムズ指数は週間で 2.6%高と続伸。一進一退を繰り返しながら上値を広げた。19日は前営業日比 1.3%高と好発進。20日は高額不動産取引に課される印紙税率が同日付で引き上げられたことを受け、不動産株が売られて反落したが、21日は金融株が上昇をけん引し、終値ベースで約 3 週間ぶりに 3500 ポイントを回復。22日は前日の NY ダウが長期金利上昇に対する警戒感の広がりでも下落した影響で反落したが、23日は前日比 1.3%高と反発して引けた。今週は 26日に 1月の鉱工業生産、2日に 2月の製造業 PMI が発表される。製造業 PMI は 09年 12月以来の最高値を更新した前月を上回るかが焦点。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.1%高、17年 10-12 月期の GDP 成長率は前年同期比 4.0%

SET 指数は週間で 0.1%高と小幅に続伸。週末の反発が指数を支えた。週初の 19日は 17年 10-12 月期の GDP 成長率が前年同期比 4.0%と市場予想の 4.3%から下振れしたものの影響は小さく、指数は 3 営業日続伸。20日は大引け間際に売られて反落すると、21日は前日からほぼ横ばいで推移。22日は原油先物価格の値上がりを受けてエネルギー株が買われたが補えず、終値ベースで 6 営業日ぶりに節目の 1800 ポイントを割り込んだ。一方、23日は前日の NY ダウが反発した流れを受け、前日比 1.1%上昇して取引を終えた。今週は 28日に 1月の鉱工業生産、2日に 2月の日経 PMI と CPI が発表される予定。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.3%高、今週は 28日に 1月の CPI 発表

クアラルンプール総合指数は週間で 1.3%高と続伸。週初に大きく上昇すると、その後は小幅なレンジでもみ合った。19日は前週末までの NY ダウの 6 営業日続伸に加え、原油先物価格の上昇が好感されて指数は前営業日比 1.0%高。20日は利益確定売りで小幅ながら 6 営業日ぶりに反落したが、21日は 17年 10-12 月期の企業決算が総じて好調なことを受けて買われた。今週は 28日に 1月の CPI、1日に 2月の日経 PMI が発表される予定。外部要因では中国の公式の製造業 PMI と財新製造業 PMI が意識されそうだ。米国での利上げ加速への懸念がやや後退し、NY ダウが先週末に続伸したことは好材料。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合もあります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。